

株式会社フィックスターズ

2022年9月期 通期決算補足説明資料

2022/11/11

本資料に記載の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報および仮説に基づき当社が判断したものであります。

当該仮説や判断に含まれる不確定要素や事業環境の変化による影響等の様々な要因により、実際の業績等は本資料記載の業績予想とは異なる場合があることをご承知おきください。

1

2022年9月期 決算説明

- ・ 高速化サービス等のSolution事業が好調

- ・ 新規事業投資のタイミング見直し等の影響もあり前期から大幅な増益

- ・ 売上高 : 6,310百万円 (前期比 + 14.7%)
- ・ 営業利益 : 1,624百万円 (前期比 + 67.1%)

- ・ Solution事業は着実に事業を推進

- ・ 高速化サービスを中心に旺盛な需要
- ・ 積極的に人材採用活動を実施

- ・ SaaS事業では収益化に向けた活動を継続

- ・ Sider, Fixstars Amplifyへの販促投資タイミングを見直し
- ・ Product Solution Fitの達成に向けた活動を継続

連結損益計算書

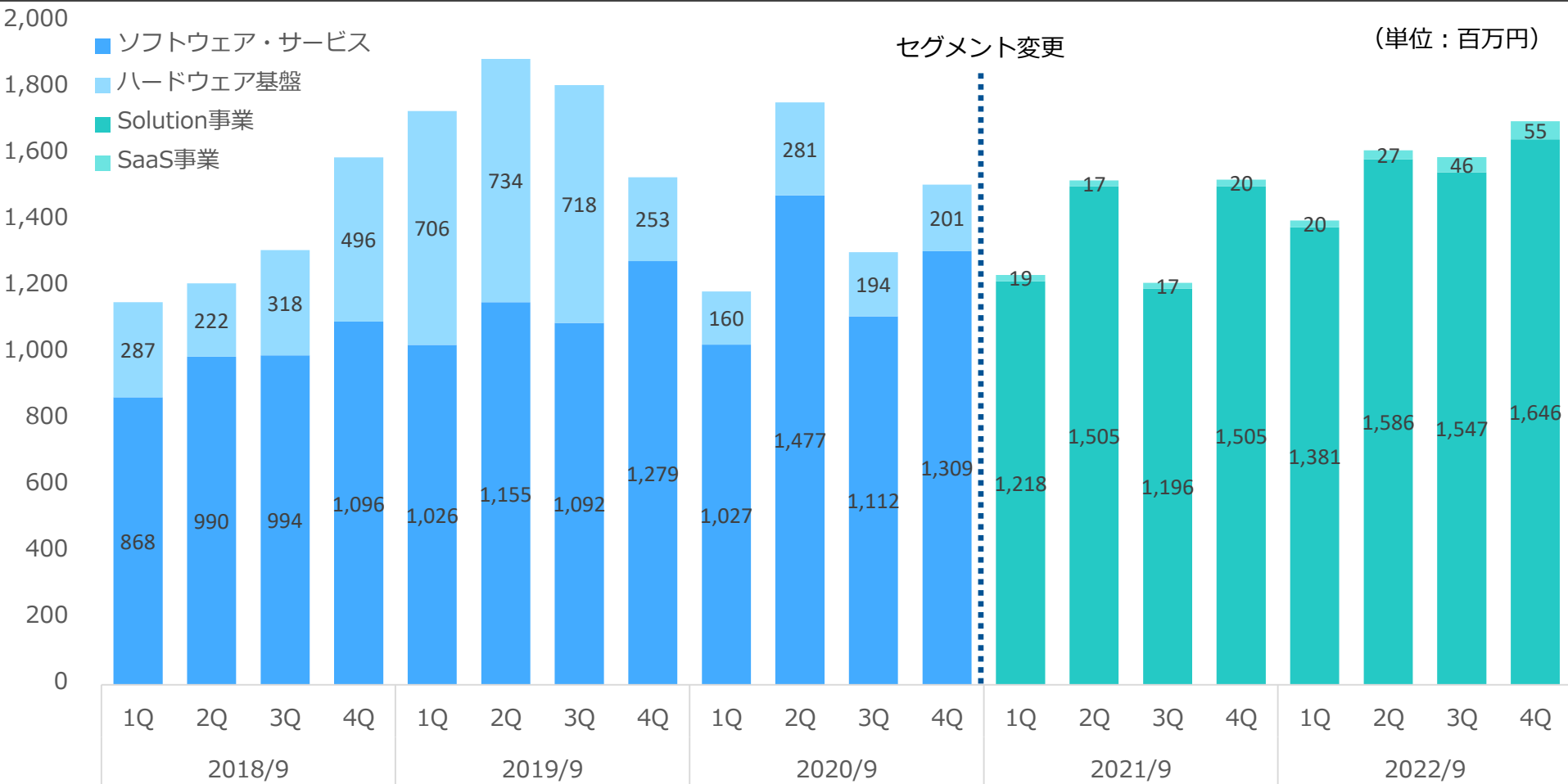
Solution事業が業績をけん引。各SaaS事業において広告宣伝予算の使用を見送ったこと等により、大幅な増益。
2022年8月に修正した通期予算とほぼ同水準での着地となり、営業利益、当期純利益とも過去最高益を達成。

(単位：百万円)	2021年9月期	2022年9月期	2022年9月期		
	実績	予算	実績	前年同期比	予算比
売上高	5,501	6,300	6,310	+14.7%	+0.2%
営業利益	971	1,600	1,624	+67.1%	+1.5%
売上高営業利益率	17.7%	25.4%	25.7%	+8.1pt	+0.3pt
親会社株主に帰属 する当期純利益	543	1,000	1,082	+99.3%	+8.3%
売上高当期純利益率	9.9%	15.9%	17.2%	+7.3pt	+1.3pt

売上高

Solution事業の売上が大半を占める状況。SaaS事業は今後の飛躍的成長を目指す。
 新収益認識基準の適用に伴い、四半期毎の変動は縮小。

※GENESIS事業をSaaS事業からSolution事業へ統合したことに伴い、
 2021年9月期以降のセグメント別の業績は、当該変更を反映した数値に組替

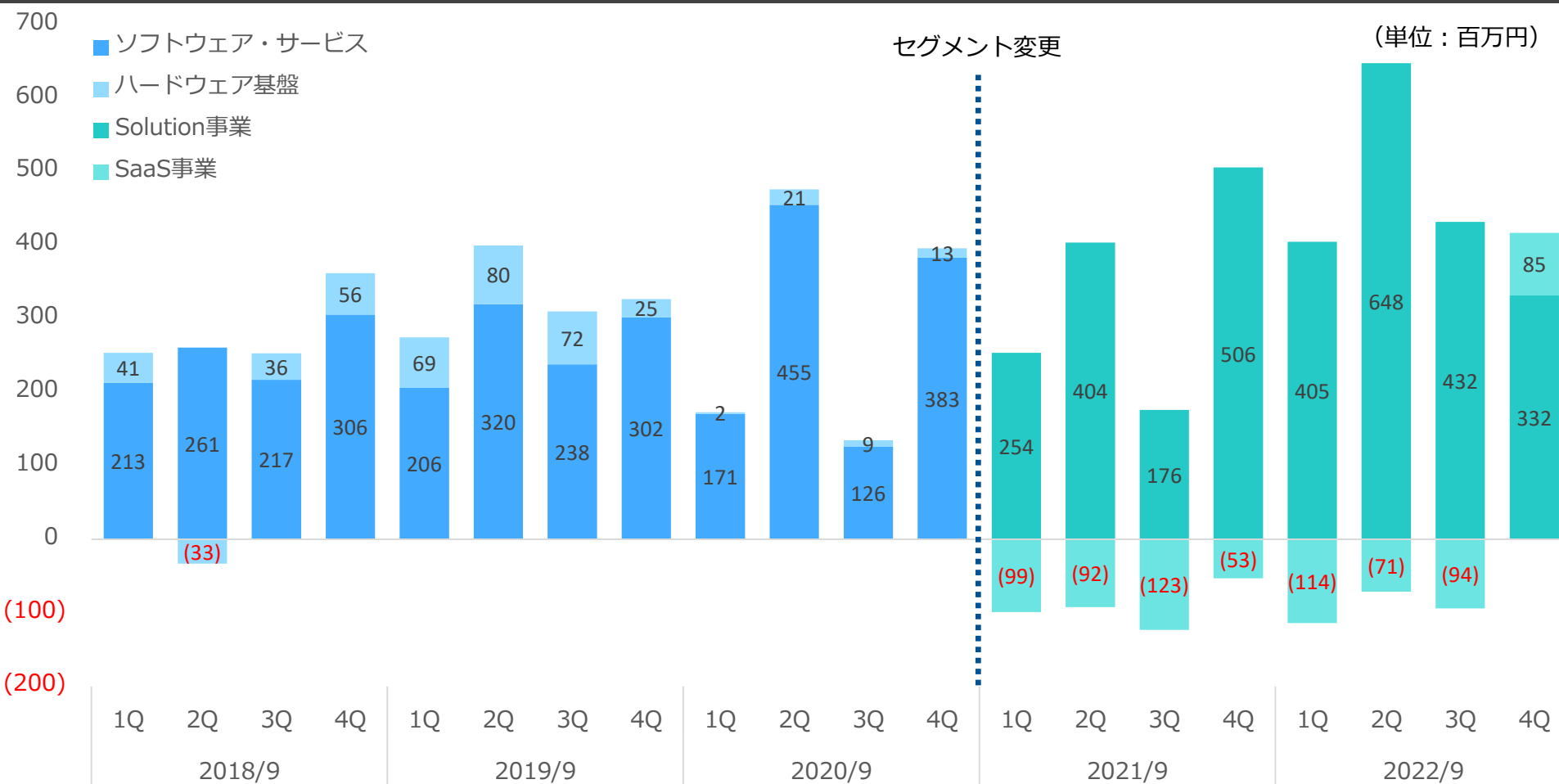


営業利益

SaaS事業へは前期と同様に積極的な投資を実施。前期4Qの赤字縮小・当期4Qの黒字化は補助金の計上による一時的なもの。

Solution事業における当期4Qの利益減少は、従業員への特別賞与支給による。

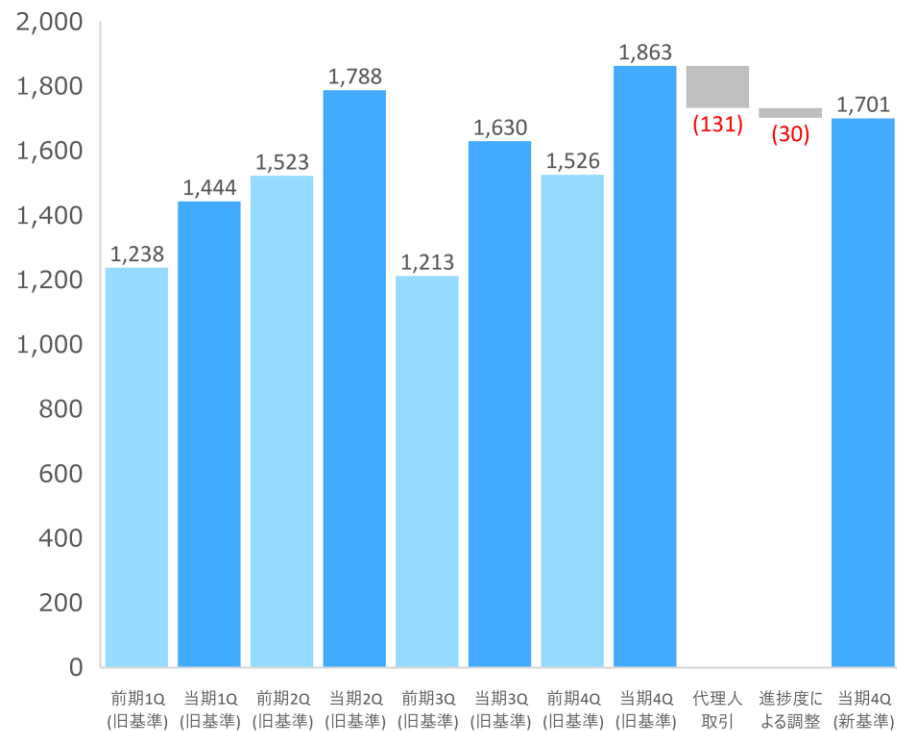
※GENESIS事業をSaaS事業からSolution事業へ統合したことに伴い、
2021年9月期以降のセグメント別の業績は、当該変更を反映した数値に組替



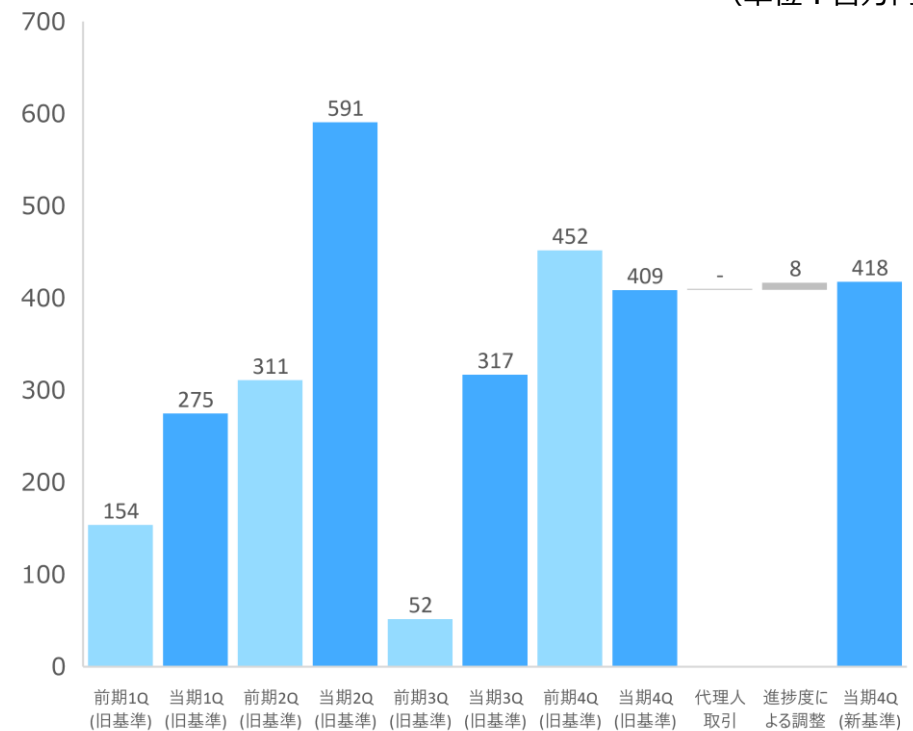
新収益認識基準の適用

ハードウェア販売案件の大半において、代理人取引として収益を総額計上から純額計上へ
 期末時点で仕掛中のソフトウェア開発・高速化サービス案件の一部において、案件の進捗度に応じて収益を計上
 通期での影響額は売上高▲416百万円、営業利益+30百万円

(単位：百万円)



売上高

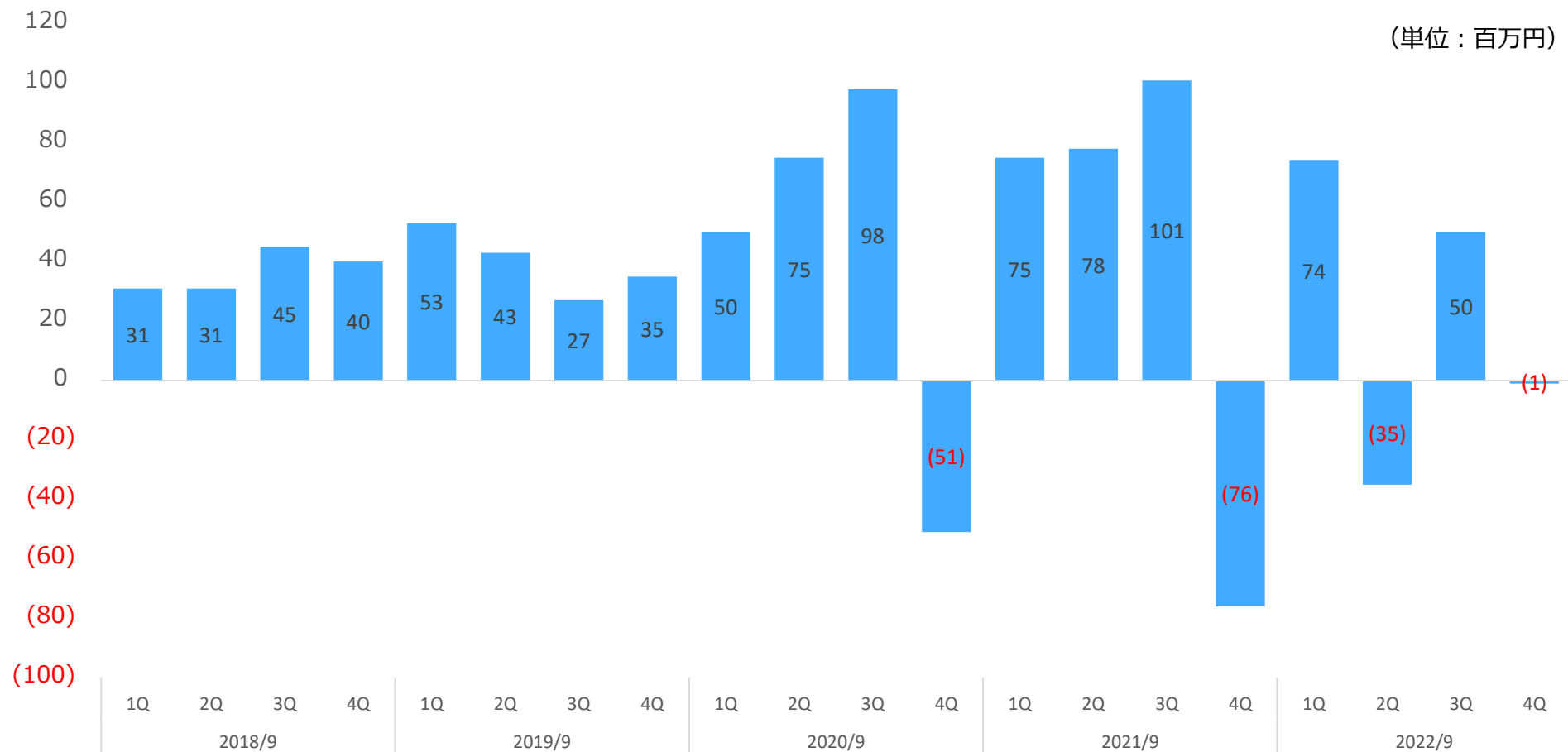


営業利益

研究開発費

新規SaaS事業向けの研究開発を継続。中長期の研究開発活動においてはNEDO等からの補助金を活用し、費用負担の軽減を図る。補助金の確定額を研究開発費から控除していることにより、前々期4Q・前期4Qと同様に当期2Q・4Qの研究開発費は減少。

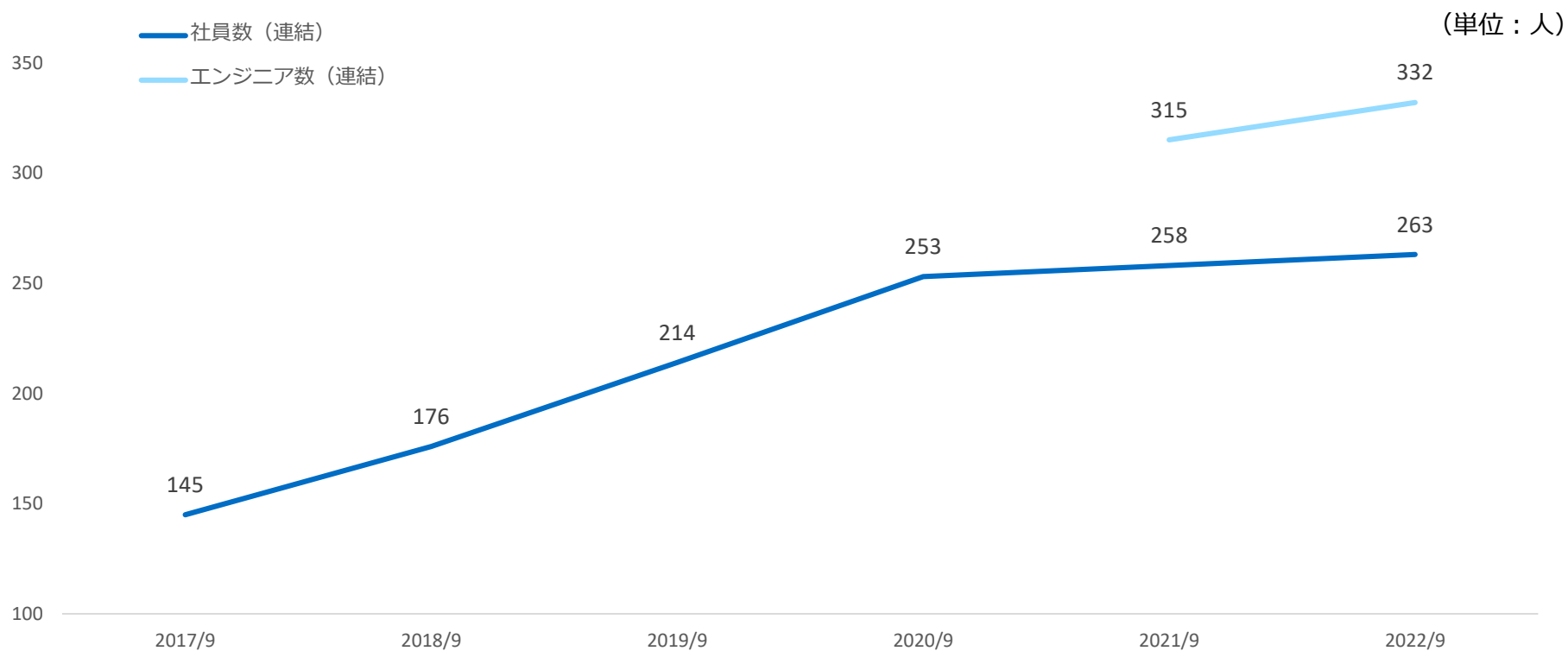
(単位：百万円)



社員数・エンジニア数推移

採用活動に注力し、様々なチャネルを利用した活動を実施中。
パートナー企業のエンジニアも活用し、事業規模の拡大を図る。

※エンジニア数 = 社員から非エンジニアを除き、
稼働しているパートナー企業のエンジニアを加えたもの
集計は2021年9月より



2

2023年9月期 通期業績予想

- ・ 中期経営計画の最終年度 売上・利益とも過去最高を見込む

- ・ 事業の状況を鑑み、中期経営計画の数値目標は下方修正

- ・ 売上高 : 7,300百万円 (前期比 +15.7%)
- ・ 営業利益 : 2,000百万円 (前期比 +23.1%)

- ・ Solution事業は全体に堅調な成長を見込む

- ・ モビリティ等を中心とした高速化ソリューションに対する旺盛な需要
- ・ 成長のための人材確保に注力

- ・ SaaS事業は飛躍的成長に向け事業開発を継続

- ・ Product Solution Fitの達成に向けた活動を継続
- ・ 製品の完成度を高め、飛躍的成長のための足場固め

連結損益計算書・配当金

増収・増益（売上高・利益ともに過去最高）を見込む。

配当は連結配当性向30%を目安に実施する方針としており、増益に伴い増配の予定。

(単位：百万円)	2022年9月期	2023年9月期	
	実績	予想	前期比
売上高	6,310	7,300	+15.7%
営業利益	1,624	2,000	+23.1%
売上高営業利益率	25.7%	27.4%	+1.7pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,082	1,300	+20.1%
売上高当期純利益率	17.2%	17.8%	+0.7pt
1株当たり当期純利益	33.53円	40.44円	+20.6%
1株当たり配当金	10円	12円	+2円

3

補足資料① SaaS事業の状況

Solution + SaaS のハイブリッド収益モデルへの転換

当社が強みとする技術を領域別のSaaSに展開し、成功の確度を上げながら、飛躍的な成長を狙います。
さらに、SaaSを入り口として受託Solutionの受注にもつなげ、SolutionとSaaSのシナジーを構築していきます。

Solution事業



SaaSを入り口に
受託Solutionの受注拡大



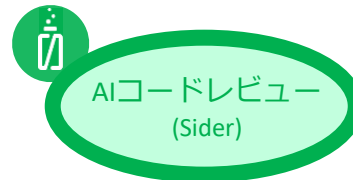
受託で蓄積した技術を
領域別にSaaS化

SaaS事業

活用する技術



量子コンピュータ・
GPU活用技術



ソフトウェア工学全般



AI画像認識技術

- 高付加価値・高単価の受託による高速化ソリューションの提供
- 先端技術の蓄積により、成長領域において他社より先に案件を確保。安定的で着実に成長

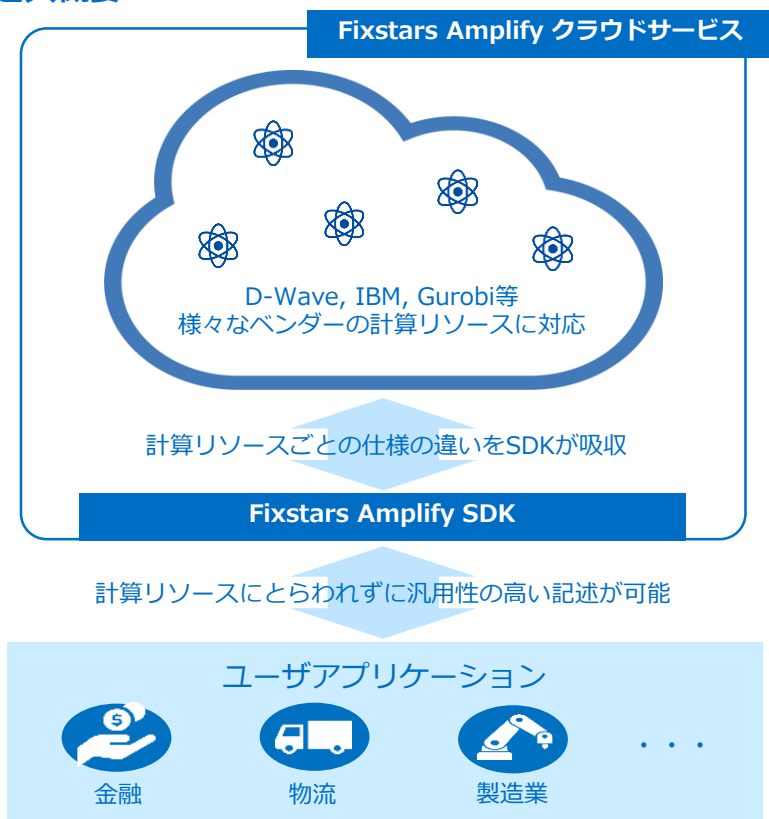
ビジネスモデル
当社の強み

- 高付加価値SaaSビジネスでストック型売上を拡大
- 受託で培った技術を用い、初期投資とリスクが低減できる領域で展開。飛躍的な成長を目指す

量子コンピューティング事業

組み合わせ最適化問題の解決のために最適な計算リソースを柔軟に選択できる、Fixstars Amplify クラウドサービスを展開。
量子コンピューティング環境のデファクトスタンダードを目指します。

サービス概要



事業の状況

- ☑ ベルメゾンロジスコ社の通販向け物流倉庫において、人員最適配置自動作成サービスが実証実験を終え、実運用開始経験と勘に基づいていた人員配置のシフト作成を自動化し、管理者の業務負荷軽減や、現場人員の働きやすさ、満足度向上に寄与
- ☑ 研究用途での導入も企業・大学を中心に進む新設したアカデミックプランが大学に好評
- ☑ 登録組織数：392 総実行回数：1,296万回 (2022年9月末現在)

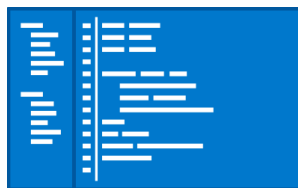
今後の施策

- ☑ 大学や産業界と連携し、実社会問題を1つずつ解決、実運用事例を積み上げていく
- ☑ Amplifyクラウドサービスのユーザを拡大・活動を支援し、実証実験等の促進に繋げる
- ☑ Amplifyクラウドサービスの拡張を続け、実社会問題への対応領域を広げるとともに、量子コンピューティングプラットフォームとしてデファクトスタンダードを目指す

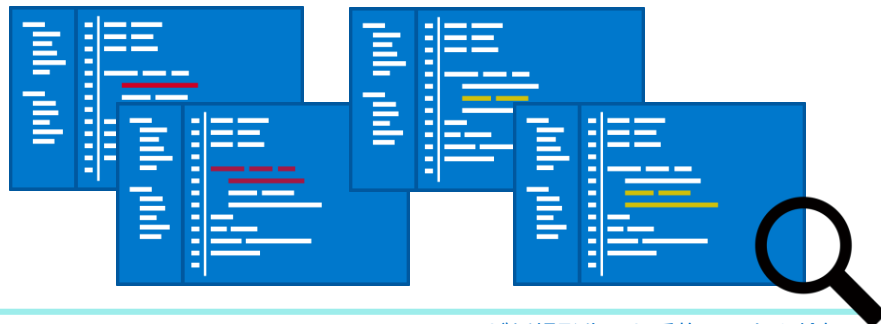
AIコードレビュー “Sider” 事業

ソフトウェア開発において、作成したプログラムのコードを第三者の目でレビューする「コードレビュー」は必要不可欠となりつつあります。本事業では、AIによる自動のコードレビューを提供し、あらゆる開発プロジェクトの品質を劇的に向上させます。

新製品「Siderscan」の概要



プログラム開発の現場で量産されがちな
コピーによるよく似たコード群
(重複コード)



Siderscanが新規発生した重複コードを検知
グループ化してその後の変更も追跡

- ・ 重複コードの抑制
- ・ 修正漏れによるバグ防止

事業の状況

- 新製品「Siderscan」のバージョンアップを重ねる
バグの温床であるが、既存のツールでは検出できなかった重複コード（コピペの結果生成される類似のコードブロック）を検出し、変更を追跡
- 大規模プロジェクトでの実例を収集
ユーザに協力を依頼し、Siderscanがより威力を発揮する大規模プロジェクトでの検出結果、ユーザインタビュー等の情報を収集し、製品価値向上に繋げる

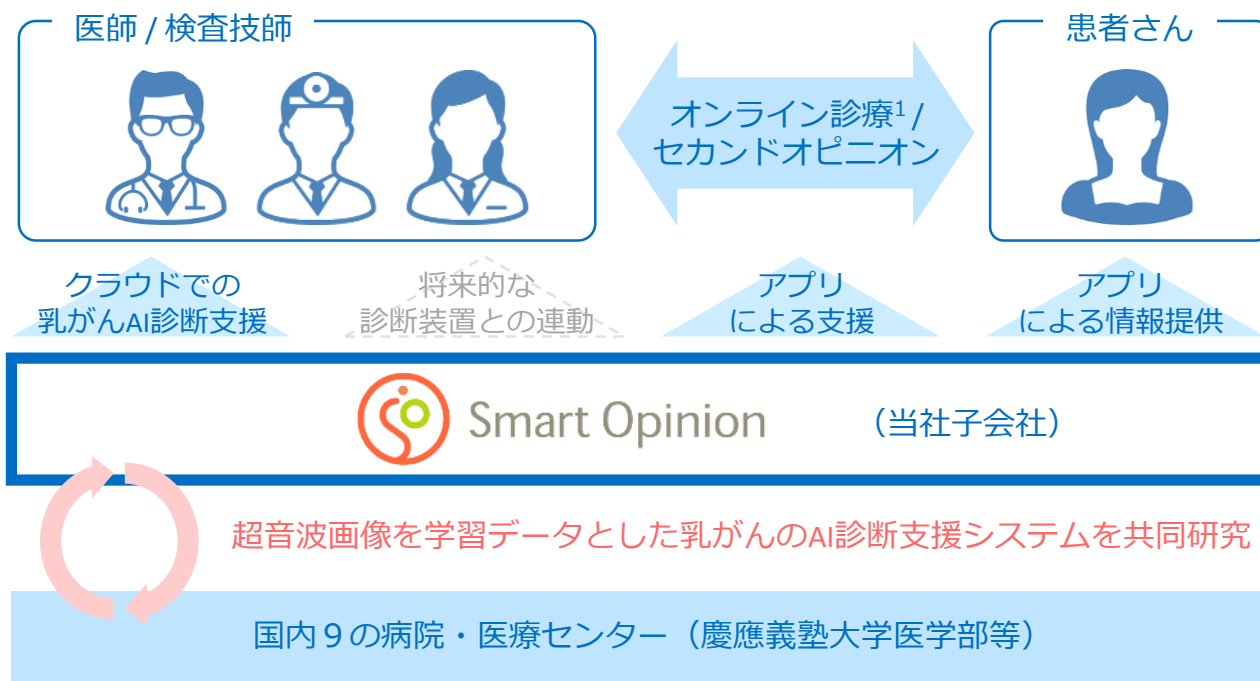
今後の施策

- ソースコード分析エンジンの改良を重ね、重複コードの検出精度を向上
- 実例の収集を加速し、UXの改良を続ける
- グローバルにサービスを提供し、飛躍的成長を実現する

乳がんAI画像診断支援事業

乳がんの超音波画像に対し、AIを用いて精密検査の要否を高速かつ高精度に判別し、医師の負担軽減を目指します。
乳がんの早期発見を支援し、がん発見後も総合的に患者さんをサポートするサービスを提供していきます。

サービス概要



事業の状況

- AIの開発を進める
有用性が学会等で高評価
- PMDA承認申請に向けて活動中

今後の施策

- 早期にサービス開始すべく、
PMDA承認取得に向けた活動を継続
- クラウドでの診断支援サービスで、
病院側での初期投資のないサービス提供を図る
- 超音波診断装置と連動した
サービス提供を目指す

4

補足資料② フィックスターズについて

高速化のエキスパート集団

フィックスターズは、コンピュータの性能を最大限に引き出し大量データの高速処理を実現する、高速化のエキスパート集団です。

概要

会社名	株式会社フィックスターズ
本社所在地	東京都港区芝浦3-1-1 msb Tamachi 田町ステーションタワーN 28階
設立	2002年8月
上場区分	東証プライム（証券コード：3687）
代表取締役社長	三木 聡
資本金	5億5,446万円（2022年9月末現在）
社員数（連結）	263名（2022年9月末現在）
主なお客様	キオクシア株式会社 ルネサスエレクトロニクス株式会社 株式会社ネクスティ エレクトロニクス みずほ証券株式会社

グループ体制

株式会社フィックスターズ

株式会社Fixstars Autonomous Technologies

株式会社ネクスティ エレクトロニクスとのJV
自動運转向けソフトウェア開発に特化

Fixstars Solutions, Inc.

100%子会社
米国での営業及び開発を担当

株式会社Sider

100%子会社
新規SaaS事業“Sider”を担当

株式会社Smart Opinion

連結子会社
乳がんAI画像診断支援事業を担当

オスカーテクノロジー株式会社

連結子会社
ソフトウェア自動並列化サービスを提供

株式会社Fixstars Amplify

100%子会社
量子コンピュータ関連のクラウド事業を担当

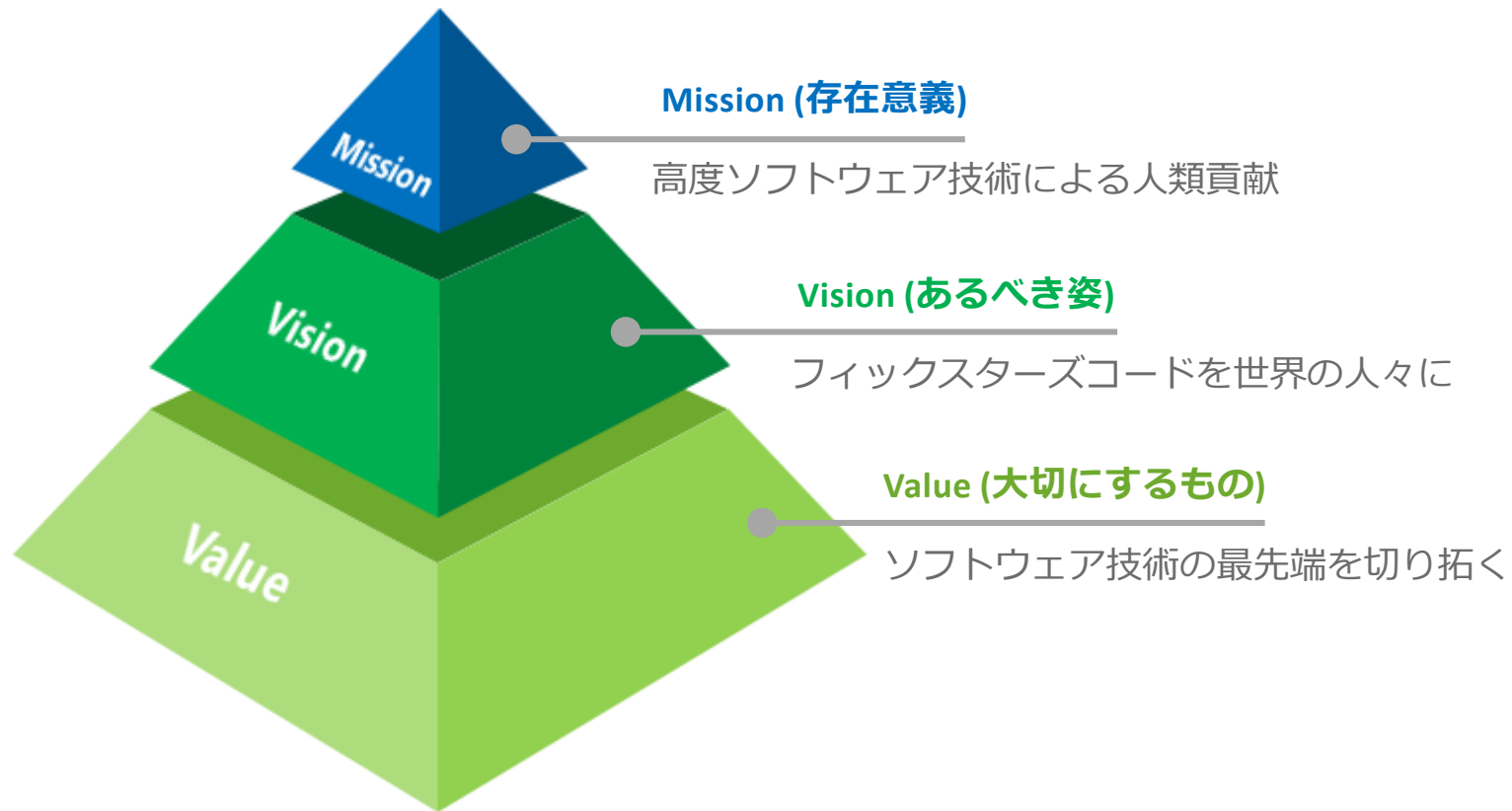
コンピュータの進歩とともに

ハードウェア技術の進化にいち早く対応し、
その性能を最大限に引き出すソフトウェア開発・高速化サービスとともに成長してきました。

年月	出来事
2002年 8月	神奈川県横浜市に有限会社フィックスターズ設立、その後株式会社に組織変更
2004年 7月	マルチコア技術開発部設立、Cell/B.E.ソフトウェア開発サービス開始
2006年 12月	PlayStation®3の発売を受け、「PS3® Information Site」を立ち上げ
2009年 12月	「OpenCL入門ーマルチコアCPU/GPUのための並列プログラミング」を出版
2010年 11月	米国空軍研究所に、PlayStation®3を用いた高速クラスタシステムを導入
2012年 1月	NANDフラッシュメモリ関連ソフトウェア開発サービス開始
2014年 4月	東京証券取引所マザーズ市場に上場
2016年 11月	東京証券取引所市場第一部に市場変更
2017年 6月	量子コンピュータを手掛けるD-Wave社との協業を開始
2018年 2月	自動運転分野のさらなる拡大を目指し、ネクスティ エレクトロニクス社と合併会社Fixstars Autonomous Technologiesを設立
2020年 3月	自動並列化技術に強みを持つオスカーテクノロジー株式会社の株式を取得、連結子会社化
2021年 10月	量子コンピューティング領域のさらなるサービス事業拡大を目指し、株式会社Fixstars Amplifyを設立
2022年 4月	東京証券取引所の市場再編に伴い、東京証券取引所プライム市場に市場変更

コンピュータの恩恵を人々に

コンピュータの性能を最大限に引き出す高速化技術を軸に、ESGをはじめとする人類社会の課題解決に貢献しています。



高速化技術による環境負荷低減

当社は、多様な産業分野に対する高速化ソリューションにより電力消費を大幅に抑え、環境負荷低減に貢献しています。

多様な産業分野における高速化ソリューション

Semiconductor

- ・ NAND型フラッシュメモリ向けファームウェア開発
- ・ 次世代AIチップ向け開発環境基盤の開発

Mobility¹

- ・ 自動運転の高性能化、実用化
- ・ 次世代パーソナルモビリティの研究開発支援

Life Science

- ・ ゲノム解析の高速化
- ・ 医用画像処理の高速化

Finance

- ・ デリバティブシステムの高速度化
- ・ HFT(アルゴリズムトレード)の高速度化

Industrial

- ・ Smart Factory化支援
- ・ マシンビジョンシステムの高速度化

数倍～数百倍の高速化による
電力消費時間の短縮



Note: 1) 一例として、自動運転向け画像認識処理の高速化 (1車種) のみでも、2020年に約14,000トンのCO2削減が見込まれる (当社推計)

高速化に限らない様々な社会貢献

高速化ソリューションによる消費電力削減に加え、自動運転や医療等の様々な分野への支援により、環境や社会の課題解決に貢献しています。

当社事業領域

社会的価値



自動運転の高性能化、実用化
次世代パーソナルモビリティの研究開発支援

交通事故の根絶
交通弱者へのサポート



AIによる画像診断支援

より気軽でより質の高い
診断・治療へのアクセス



量子コンピューティングによる生産性の向上、労働の効率化

カーボンニュートラルへの貢献

ソフトウェア高速化サービス

当社事業の根幹をなすソフトウェア高速化サービスにおいては、ソフトウェアの最適化やアルゴリズム改良等によりコンピュータの性能を最大限に引き出すことで、大量データの高速処理を実現しています。



当社

オリジナルソースコードのご提供

高速化したソースコード



お客様



コンサルティング



高速化



サポート

- 性能評価
- アルゴリズムの改良・開発
- レポートやコードへのQ&A
- ボトルネックの特定
- ハードウェアへの最適化
- 実製品への組込み支援
- レポート作成

